

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん

# 息軒だより

一日の計は朝（あした）にあり

一年の計は春にあり

一生の計は少壮の時にあり



令和元年度 18号 (2・3月号)

発行 宮崎市安井息軒記念館

管理 NPO 法人安井息軒顕彰会

理事長 齋藤義輝 館長 中村富英

〒889 - 1605

宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378 - 1

TEL0985-84-0234 Fax0985-84-2634

e-mail:sokken.yasui@pic.bbq.jp

http://yasuisokken.qcweb.jp/

読み取ると、記念館 HP  
がご覧になれます。

## 文化・郷土の偉人を伝承していくこと

安井息軒旧宅の茅葺き屋根の葺き替え作業を見ていて、これこそ正に職人技！と感動しながら見ていました。担当の方から話を聞いてみると、職人 7~8 人は長野県からわざわざ来てもらっている。使用している茅葺（ススキ）は熊本県から持ってきている。竹、縄も他の県から持ってきている。などいろいろ説明を受けました。それは、専門の職人がいなくなってきたこと、材料も近辺ではとれないことと職人さんのこだわりだそうです。作業も全て手作業、しかも、その地方、地域で縄の締め具合、屋根の角度などは、その地域の

自然環境に合わせて変えるそうです。しかも、自然に育ったものを無駄なく利用して作っていくそうです。

昔はほとんど自分たちでおこなっていた葺き替え作業も今では一部の専門家だけになってしまったのは当然、茅葺屋根の家

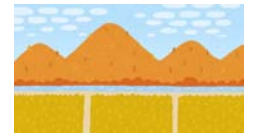
がなくなってきたからです。しかし、このような素晴らしい伝統技術を絶やしてしまっはいけない。伝え残していくことが今を生きる私たちの責務ではないでしょうか。そのためには、意図的に計画的に伝えていこうとしなければいけない時代になっています。安井息軒旧宅も国指定史跡です。国指定ということでこれからも守られ伝えられていきます。

写真①は旧宅外観です。写真②は旧宅の中から見た天井の写真です。中から見ると建築技術の集大成であることが分かります。

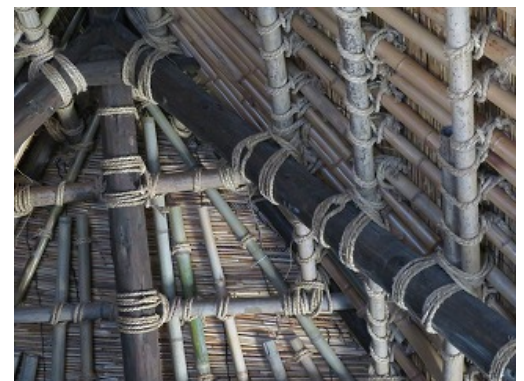
郷土の偉人「安井息軒」の伝承についても同じようなことが言えるのではないのでしょうか。ここ清武から昌平坂学問所のトップ教授までなられた先生の偉業を知り、伝えていくことが私たちの責務ではないのでしょうか。

今回の新春企画展では「令和のはじめは収蔵品展」と題して、この記念館に収蔵してある貴重な文化財や懐かしい写真の展示を開催しております。息軒に関する資料や写真等をご覧いただき、その時代、その時代の雰囲気浸っていただきたいと思います。

(文責 中村)



写真① 旧宅外観



写真② 旧宅天井

# 藩校 振徳堂

## そうだ。飢肥に行こう。～安井息軒記念館講座～

令和元年 12 月 7 日 (土)、元日南市生涯学習課長の岡本武憲氏をお招きして、記念館講座が実施されました。九州で初めて重伝建地区 (重要伝統的建造物群保存地区) に指定された飢肥の町並み保存について、熱くお話ししてくださいました。町並み保存はさまざまな機関との横断的な連携がないと進まない事業です。その先頭にたたれた氏だからこそ語ることでできる苦労話やこれからの飢肥の展望など、大変楽しいお話をお聞きすることができました。改めて、飢肥に行きたいと思いました^^



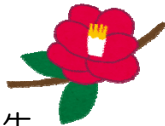
天保 2 年 (1831)、飢肥藩主伊東祐相が飢肥藩の藩校として設立した建物で、高さ 2m 以上の高い石垣に囲まれた広い敷地内に長屋門と主屋が保存されています。

藩校の教授陣には安井滄洲・息軒父子が任じられました。振徳堂からは、小倉処平や小村寿太郎などのすぐれた人物が輩出しています。



### 【12 月】

- ひまわりの里
- 宮崎市立江南小学校 4 年生
- 鹿児島県さつま町小中学校事務職員会
- 宮崎県図書館部会
- 戦争を語り継ぐ会
- 宮崎市立清武小学校 3 年生



### 【1 月】

- 新富町生涯学習わかば学級 A グループ
- 新富町生涯学習わかば学級 B グループ



団体の皆様、ご来館ありがとうございました。またのお越しをお待ちしております☆彡

### 新春企画展

#### 「令和のはじめは収藏品展」

収蔵庫の中から記念館の「おたから」が飛び出した!! 息軒に関係する資料、清武出身の彫刻家 長田満也の作品、明治・大正・昭和の子どもたちの教育を支えた小学校の古い写真や教科書類など約 50 点をご紹介します。

- 1 月 18 日 (土) ~ 3 月 8 日 (日)
- 午前 9 時 ~ 午後 4 時 30 分
- 観覧無料



子どもたちにも見やすい展示になっています。気軽に見学に来てくださいね♪

※お申し込み・お問い合わせはお気軽に安井息軒記念館までご連絡ください。電話・ファックス・メールでも構いません。

## 今後のイベント案内

### 清武町史セミナー (全 4 回)

- ①11月23日(土) ②12月21日(土)
- ③1月18日(土) ④2月22日(土)

※いずれも 10:00~11:45

- 講師: 松浦 祥雄 氏  
(『清武町史』執筆者の 1 人)
- 会場: 安井息軒記念館 研修室



### 安井息軒ふるさとウォーク

- 3 月 8 日 (日) 9:30~12:00
  - 記念館集合・出発・解散。
  - 定員 30 名。参加料無料。
- 中野地区の史跡を、歩きながら探訪します。詳しい解説付き^0^



※ 3 月 3 日 (火) までにお申し込みください。

# もっと知りたい！息軒噺（ばなし）

## 志半ば伝馬町の牢に散った 悲運の志士北有馬太郎

【其の5】

文久元年（1861）2月、貞太郎は西川練造と共に江戸清河塾を訪れます。ここにおいて、尊王攘夷党「虎尾の会」が結成され、攘夷実行の策として東禅寺焼き討ち計画が決定します。しかし、同志によるヒュースケン暗殺事件後、彼らの周りには幕吏の目が光っていました。そして、この計画は清河八郎の起こしたある事件により、もろくも破綻してしまうのです。

5月20日、同志たちとの酒宴の帰り道、酔いの強まっていた清河は、執拗に絡んできた酔漢を一刀のもとに斬殺してしまいます。この無礼人斬殺事件は、この後多くの人を巻き込んで思いもよらぬ犠牲者を出すこととなります。

逃走した清河ら4人は、貞太郎のいる奥富村まで逃れてきて、広福寺に潜伏し、貞太郎や住職意章、西川練造に会合します。一方ではその頃、八州取締の探索の手が刻一刻とこの広福寺に迫っていました。この様子を探ろうと出かけた西川練造は、そのまま戻ってきませんでした。ここにきて、もはや猶予のならぬことを悟った清河らは、翌朝4時過ぎに広福寺を脱出します。捕吏たちが広福寺に踏み込んだのは、その翌日のことです。貞太郎は名主宅への出頭を求められ、その場で捕縛されます。（清河らは潜伏を続け、2年後、大赦により罪を許されます。）この事件で伝馬町獄舎に収容されたのは、貞太郎を含めて9人。貞太郎以外は揚屋と呼ばれる直参や僧侶、医師などが収容される牢に入れられましたが、貞太郎はひとり、無宿人が収容される劣悪な環境の二間牢に入れられます。息軒と妻子に類が及ぶのを避けたかった貞太郎の覚悟はあまりにも切なく、悲壮なものでした。牢屋も金次第、金の切れ目は命の切れ目でもあったのです。病気になってもまともな薬も与えられず、しだいに衰弱していく貞太郎の脳裏に去来したものは何だったのでしょうか。志半ばで生を終える無念さでしょうか。あるいは郷里の母や残していく愛し子の姿であったかもしれません。文久元年9月3日、北有馬太郎（貞太郎）は、35歳の生涯を閉じるのでした。

（文責 長野）

- 参考文献：●「漂泊の志士」小高旭之著 ●「北有馬百之略傳」倉田施報撰  
●「安井息軒宛て中村貞太郎（北有馬太郎）書簡の翻印と解題」町泉寿郎著



## curator Colum

### 思い出したら、語りが止まらない！～博物館資料と「回想法」～

学芸員 小山の  
つぶやきコーナーです。  
※curator(キュレーター)  
「学芸員」の英訳

友とともに写った写真、初めて買って聴いたレコード、名優が出ている人情物の映画……。時々、古くて懐かしいものが恋しくなり、いつの間にか

「あの日」の思い出に浸っていた、なんてことはありませんか？思い出すことを「回想」とも言いますが、この言葉に関連して介護・福祉分野で認知症予防プログラムの中に「回想法」というものがあります。昔を思い出し、語ることによって脳が刺激されるとともに、自己肯定感へつなげていく活動ですが、実はこの「昔のもの・古いもの」を提供できる場こそ博物館等の施設なのです。これら施設が所有する古い写真・音源・映像・日常用具（民具）は回想法に最適なアイテムであり、意外に思われるかもしれませんが博物館資料と介護・福祉分野のコラボレーションが可能になる事例でもあります。このような「博福連携事業」はまだまだ周知度やその実践の蓄積が少ないのですが、高齢者の方々が元気にイキイキと過ごしていただくために博物館資料が活用されることは非常に嬉しいことだと思います。さて、当館でも新春企画展「令和のはじめは収藏品展」が始まりました。明治5年（1872）に学制が發布されると、6歳以上の子どもたちは教育を受けることが義務付けられ、各地に小学校が設立されます。この企画展では収蔵資料だけでなく、古い学校関係の写真パネルにし、懐かしい気持ちになっていただく場を設けています。どうぞ、「あの日のあなた」に戻ってたくさん思い出して、語ってください。狭いスペースですが、記念館でも「回想」ができます。

## ●令和元年最後の旧宅清掃

12月1日(日)、リニューアル間近の安井息軒旧宅の清掃が行われました。比較的暖かい冬の到来ですが、清掃の日はあまり天気恵まれず……。それでも、文化財を守るとともに、リニューアルを楽しみにしている方々のことを思うと清掃にも熱が入ります。旧宅敷地内のイチョウが色づき、晩秋初冬の季節感も味わうことができます。



## ●楽しくも真剣。安井息軒顕彰かるた大会 予選

12月14日(土)、この日は安井息軒旧宅がリニューアルオープンした日でもあります。毎年恒例の「息軒かるた」を使ってのかるた大会(予選)が旧宅で行われました。シングルス、ダブルスなどに分かれての試合ですが、子どもたちの目は真剣そのもの。札を取るスピードに驚かされました。予選で勝ち進んだ子どもたちは、2月11日(火・祝)の第18回安井息軒梅まつりで、準決勝・決勝戦に挑みます。



## ●お佐代さんを偲ぶ会、しっとりとして行われました

1月4日(土)の午前中令和2年最初の行事が仕事始めの日に行われました。安井息軒の妻お佐代さんは文久2年(1862)1月3日に51歳の生涯を閉じました。毎年、お佐代さんの命日に合わせて献花をし、お茶とお菓子をいただきながらなごやかに佐代を偲びました。また、本年度は詩吟の吟唱と、清武小の児童による劇「お佐代ちゃん」の披露がありました。



## ●ますます複雑な様相を呈しています。清武町史セミナー

令和元年12月21日(土)、令和2年1月18日(土)に清武町史セミナーが実施されました。県立高校で日本史を教えておられた松浦祥雄先生をお招きし、1回目に引き続き大変分かりやすい講義を展開してくださいました。日向国でも南北朝の動乱の様相が激しくなり、北朝(足利尊氏方)・南朝(懐良親王方)・直冬方(足利直冬/尊氏の子。後に尊氏の弟・足利義直の養子となる。)という3つの勢力が拮抗していきます。この渦中に土着の氏族が加わって複雑化していきます。次回は2月22日(土)、本年度の最終回となりますが、次年度も継続して松浦先生に講師をお願いしています



# 会員募集

NPO 法人 安井息軒顕彰会では令和元年度の会員を募集しております。

年会費

- 一般会員 2,000円
- 賛助会員 1,000円
- 学生会員 500円
- 団体会員 5,000円



各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局宛ご連絡ください。

## NPO 法人 安井息軒顕彰会

連絡先 宮崎市安井息軒記念館  
〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1  
FAX 0985-71-3005  
携帯 080-8589-0569 (安井息軒顕彰会 黒木)



### 安井息軒記念館

管理：NPO 法人 安井息軒顕彰会  
理事長 齋藤 義輝  
事務局長 黒木 幸英

### 記念館職員

館長 中村 富英  
学芸員 小山 幸子  
職員 長野 智愛子  
職員 日高 弘子